

# 東京未来大学研究紀要

第17号

2023年（令和5年）3月

原著

保育者のキャリア形成の過程に関する研究（3）

—保育士から幼稚園教諭、幼稚園教諭から保育士への転職理由の比較—

浅井かおり・浅井拓久也（1）

スポーツ・運動に対する態度と運動実施頻度との関係

—若年成人での検討—

大橋 恵・澤海 崇文・井梅由美子・藤後 悦子（13）

『ナイフの発音の仕方』における主人公のラオス人としての思い

加藤 良浩（21）

聴くことに関するわが国の算数・数学教育研究と他の教科教育研究による先行研究のメタ分析の比較から何がわかるか？

—頻度の違いに着目して—

紙本 裕一・福田 博人（29）

大学生を対象としたマインドフルネス・プログラムの体験内容と効果

川原 正人（43）

自動車教習所における発達障害者の教習に関する調査研究

小菅 英恵（49）

割合についての理解と割合文章題解決過程との関連

小林 寛子（61）

「つるばら村」シリーズにおけるお店やさんの意味するもの

佐々木由美子（71）

国語科における言語技術教育に関する一考察

—「書くこと（論理的文章）」の指導を例に—

篠原 京子（83）

西太平洋における米国の対中国安全保障戦略2006

田澤 佳昭（93）

サンフランシスコの新一世の変容

—長期滞在の日本人男性の事例からの考察—

田中真奈美（105）

ソーシャル・サポートが教師のバーンアウトと離職願望に及ぼす影響

塚本 伸一（117）

中等学校の社会系教科のカリキュラム・マネジメントにおける多文化教育の可能性（1）  
—高等学校公民科「公共」を手がかりとして—  
中澤 純一（127）

令和元年台風19号により被災した東北地方の保育施設の復旧過程における課題  
西村 実穂（139）

汗の問題を抱える人々の意識と実態  
—性別および年代による違い—  
山極 和佳・藤後 悦子（151）

### 研究ノート

発達に課題がある子どもに対するスポーツ指導に関する教材の効果  
井梅由美子・藤後 悦子・大橋 恵・吉岡 尚美・内田 匡輔（161）

身体評価と心理的肯定感の関連は身体満足に媒介されているか  
鈴木 公啓（169）

フォルメン線描の形成力  
—方法論的認識の3側面の分析から—  
高橋 文子（179）

天気予報から得られるデータをもとにColdblowという地名の由来をさぐる（2021年夏）  
—Ripple行政教区Coldblow Farmを対象としたパイロットスタディー—  
宅間 雅哉（191）

乳幼児および学童期を育てる外国人家庭の子育ての課題と必要な支援について  
藤後 悦子・野澤 純子・石田 祥代（199）

英語の歴史  
—初期近代英語期—  
西野 博道（209）

小野さつき訓導と大正新教育  
—『小学校教授日録』の記録から—  
佐藤 久恵（229）

東京未来大学研究紀要 投稿規程（221）

紀要委員会（223）

英文目次（224）

執筆者一覧（226）

# 東京未来大学研究紀要 投稿規程

2021.2.26 改正

1. 本誌に筆頭著者として投稿できる者は、本学の専任教職員とする。筆頭著者として投稿できるのは、1編のみである。非常勤講師（当該年度）は、本学の専任教職員が筆頭著者である場合に限り、共著者となることができる。ただし、紀要委員会が認める場合はこの限りではない。
2. 原稿の内容
  - 1) 原稿は、和文または英文とする。
  - 2) 原稿は未公刊のものに限る。他に投稿中の原稿も認められない。
  - 3) 原稿は原著、実践報告、研究ノート等とする。
3. 原稿の体裁
  - 1) 原稿は、原則としてA4サイズ、MS Word（2000以降）で作成し、データファイルで提出する。但し、図、表、写真等については、4に定める。
  - 2) 原稿には要約とキーワード（5語以内）を付す。要約は原則として、和文、英文のどちらかとし、和文400字以内、英文175語以内とする。要約に他の言語を使用する場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
  - 3) 原稿は1ページあたり、横書きの場合23字×39行、縦書きの場合31字×28行とし、図、表、写真等に要するスペースも含めて、1段組で20ページ以内、2段組で10ページ以内とする。文字サイズを10.5ポイントとし、和文フォントはMS明朝、英文フォントはTimes New Romanとする。1つのデータファイルに、原稿種別、タイトル（和文・英文）、著者名（和文・英文）、要約、キーワード、本文を収める。
  - 4) 本紀要は、横書き2段組、縦書き2段組、モノクロ印刷を原則とするが、特殊な版組が必要である場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
  - 5) 上記3)に定める上限のページ超過、原稿用紙手書きの原稿、2色以上の印刷、用紙の特殊な指定、及び製版に特別な費用を要する場合については、執筆者の内の本学専任教員が、その費用を個人研究費、あるいはそれに準ずる資金から負担できる範囲に限って認められる。但し、執筆者に本学専任教員を含まない場合については、その扱いを、紀要委員会で決定するものとする。
  - 6) 原稿の形式、引用文献の記載は、各専門分野の慣例に従うこととする。但し、脚注は用いない。
  - 7) 英文タイトル及び英文原稿（要約・本文）の書式の細部については、原則としてAPA（American Psychological Association）論文作成マニュアルに準拠する。

#### 4. 図, 表, 写真等

- 1) 提出する図, 表は, 原則としてMS Word (2000以降), Excel (2000以降) で作成するもの, またはそれらに挿入できる形式のものとし, 個々の原版となるデータファイル及びそれぞれのPDF ファイルを, 原稿と併せて提出する。印刷用版下については, 必要に応じて提出する。
- 2) 写真は一色刷か多色刷りかを指定した上で, 原則としてデジタルデータファイルを提出するほか, 必要に応じて, 適宜, トリミングの指示をする。
- 3) 図, 表, 写真等は本文の欄外に挿入位置を指示するか, あるいは本文中に挿入するものとする。図, 表, 写真等にはそれぞれ図1, 図2, …, 表1, 表2, …のように通し番号をつけ, 必ず縮小率と天地を指定する。
- 4) 図, 表, 写真等の説明は, 必要があれば別紙に記す。
- 5) 提出する写真のデジタルデータファイルは, なるべく解像度の高いものとする。

#### 5. 増刷は原則として, 投稿者の負担とする。

6. 投稿された論文については, すべて査読を行う。紀要委員会が委嘱する査読者の査読結果に基づき, 委員会が掲載の可否を決定する。査読は本学学内の専任教員に限らず, 学外者に依頼する場合がある。いずれの投稿についても原稿の改稿を求めることがある。

7. 英文タイトル及び英文原稿(要約・本文)は, 委員会が依頼する英語母語話者により, 英文の査読を行う。

8. 校正に関しては, 投稿者の責任とする。

#### 9. 提出締め切りおよび発行時期

- 1) 投稿を希望する者は, 紀要委員会が定める期日までに指定の執筆意向調査書を所定の方法で紀要委員会に提出する。
- 2) 原稿は, データファイルで締切日までに紀要委員会に提出する。
- 3) 原則として年1回, 毎年3月末日までに発行する。

10. 本誌に掲載された原稿の著作権は著者に帰属する。但し, 本誌に掲載された原稿は, 原則として本学が他の出版物・媒体で公刊することができる。

以 上

## 紀 要 委 員 会

委員長	宅 間 雅 哉
委 員	小 谷 博 子
	田 澤 佳 昭
	西 村 実 穂
事 務	野 島 誠 紘 (EM局)

Tokyo Future University Bulletin  
2023 Vol.17

Contents

A Study of the Process of Career Development of Childcare Workers (3): Comparison of Reasons for Changing Jobs between Nursery Teacher and Kindergarten Teacher <i>Kaori Asai and Takuya Asai</i>	1
An Examination of the Relationship Between Attitudes Toward and Frequency of Playing Sports and Exercising: A Study on Japanese Young Adults <i>Megumi M. Ohashi, Takafumi Sawaumi, Yumiko Iume, and Etsuko Togo</i>	13
An Analysis of a Protagonist's Desire as a Laotian in <i>How to Pronounce Knife</i> <i>Yoshihiro Kato</i>	21
What can be Learned from a Meta-Analytic Comparison of Previous Research in Mathematics Education and Other Subjects Regarding Listening? <i>Yuichi Kamimoto and Hiroto Fukuda</i>	29
A Study of the Experience of Mindfulness Programs for University Students and Its Effects <i>Masato Kawahara</i>	43
Training for People with Developmental Disabilities in Driving Schools <i>Hanae Kosuge</i>	49
An Examination of the Relationship Between Understanding of the Ratio and Solving Word Problems <i>Hiroko Kobayashi</i>	61
A Study of the Role of Stores in the <i>Vine Rose Village</i> Series <i>Yumiko Sasaki</i>	71
A Study of Teaching Language Arts in Japanese Language Education: Focusing on "Writing Logical Sentences" <i>Kyoko Shinohara</i>	83
U.S. Security Strategy for the People's Republic of China in the Western Pacific in 2006 <i>Yoshiaki Tazawa</i>	93
Changes of the Issues in Cultural Adaptation by Newcomers of Japanese Descent in San Francisco: From the Narrative of Japanese Men with Long-Term Residence <i>Manami Tanaka</i>	105

The Effects of Social Support on Burnout and the Intention of Resigning among Teachers <i>Shinichi Tsukamoto</i>	..... 117
The Possibilities of Multicultural Education in Curriculum Management of Social Studies in Secondary Schools (1): Through the Clues of “Public” in the Subject of Civics in Senior High Schools <i>Junichi Nakazawa</i>	..... 127
A Study of Issues in the Restoration Process of Childcare Facilities in the Tohoku Region Damaged by Typhoon Hagibis in 2019 <i>Miho Nishimura</i>	..... 139
A Study of the Consciousness and Actual Conditions among People with Sweat Problems: Differences by Gender and Age <i>Waka Yamagiwa and Etsuko Togo</i>	..... 151
A Study of the Effect of Educational Materials on Coaching Skills in Sports for Children with Special Needs <i>Yumiko Iume, Etsuko Togo, Megumi M. Ohashi, Naomi Yoshioka, and Kyosuke Uchida</i>	..... 161
An Examination of Whether the Association Between Body Appearance Evaluation and Psychological Positivity is Mediated by Body Appearance Satisfaction <i>Tomohiro Suzuki</i>	..... 169
Formative Forces of Form Drawing: Based on the Analysis of the Methodological Recognition of the Three Aspects <i>Fumiko Takahashi</i>	..... 179
An Inquiry into the Origin of the Place-Name Coldblow Based on the Data from the Weather Forecast, Summer 2021: A Pilot Study of Coldblow Farm in Ripple Civil Parish <i>Masaya Takuma</i>	..... 191
Parenting Issues and Necessary Support for Foreign Families Raising Infants and Schoolchildren <i>Etsuko Togo, Junko Nozawa, and Sachiyo Ishida</i>	..... 199
Blooming English in Shakespeare’s Time <i>Hiromichi Nishino</i>	..... 209
An Elementary School Teacher, Satsuki Ono, in the Japanese Progressive Education Movement in the Taisho Era: An Analysis of The Diary Plan Book <i>Hisae Sato</i>	..... 229



## 〈執筆者一覧〉

\*五十音順

浅井かおり	東京未来大学保育・教職センター
浅井拓久也	鎌倉女子大学児童学部
井梅由美子	東京未来大学こども心理学部
石田 祥代	千葉大学教育学部
内田 匡輔	東海大学体育学部
大橋 恵	東京未来大学こども心理学部
加藤 良浩	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
紙本 裕一	東京未来大学こども心理学部
川原 正人	東京未来大学こども心理学部
小菅 英恵	東京未来大学こども心理学部非常勤講師 公益財団法人交通事故総合分析センター
小林 寛子	東京未来大学モチベーション行動科学部
佐々木由美子	東京未来大学こども心理学部
佐藤 久恵	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
澤海 崇文	流通経済大学社会学部
篠原 京子	東京未来大学こども心理学部
鈴木 公啓	東京未来大学こども心理学部
高橋 文子	東京未来大学こども心理学部
宅間 雅哉	東京未来大学こども心理学部
田澤 佳昭	東京未来大学モチベーション行動科学部
田中真奈美	東京未来大学モチベーション行動科学部
塚本 伸一	東京未来大学こども心理学部
藤後 悦子	東京未来大学こども心理学部
中澤 純一	東京未来大学モチベーション行動科学部
西野 博道	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
西村 実穂	東京未来大学こども心理学部
野澤 純子	國學院大學人間開発学部
福田 博人	岡山理科大学教育推進機構教職支援センター
山極 和佳	東京未来大学モチベーション行動科学部
吉岡 尚美	東海大学体育学部

## 東京未来大学研究紀要 第17号

2023年3月31日 発行

編 集 東京未来大学紀要委員会

発 行 東京未来大学

〒120-0023 東京都足立区千住曙町34番12

電話 03-5813-2525

FAX 03-5813-2529

印 刷 上武印刷株式会社

〒370-0015 群馬県高崎市島野町890-25

電話 027-352-7445